

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・4月の前半はコート類の売上が良かった。中旬以降は気温の上昇に伴い、客の購買意欲が高まり、初夏物に動きが出てきた。
		スーパー（企画 担当）	単価の動き	・単価の低下傾向が底を打っている。ただし、既存店売上の前年比が悪いため、今後2～3か月の様子を見ないと判断しきれない面もある。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・郊外店舗は競合店出店の影響を受け、厳しい状況が続いているが、中心部の店舗は新道路の開通やホテル建設工事の増加に伴い、来客数が増加しており、回復傾向にある。
		コンビニ（エリ ア担当）	販売量の動き	・これまでたばこ増税に伴う価格上昇要因からたばこの売上が良かったが、4月に入ってから、商品の買上点数が増加しており、たばこ以外の商品の売上も前年比を上回っている。景気の恩恵を受けているのか、発泡酒ではなく、ビールの販売量も増加しており、ここ数年無かった動きもみられる。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・宿泊単価は横ばい状況だが、3か月前に比べて販売数が増えている。特に札幌周辺地区は、旭山動物園効果や富良野の観光ブームなどといった影響もあり、かなり観光客が増えている状況である。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・月ごとや週ごとに来客数に波があり、景況感が一定という訳ではないが、4月、6月と東京方面への動きが活発になっており、販売額が前年を超えるようになった。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの宿泊客や海外旅行客が前年度より増えている。
変わらない		美容室（経営 者）	お客様の様子	・客との会話で、旅行に行く話や買物に出掛ける話題が昨年よりも多くなっている。また、新発売された商品の動きも良い。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・選挙も終わり、少し暖かくなってきて、人の動きも少しずつ感じられるようになってきたが、慎重な買い方は依然として変わらないものがある。
		百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・平年と比べて気温が低く推移した影響もあり、婦人ファッションの売上が増えてこない。また例年であれば、新生活に対応したインテリアなど、生活雑貨需要が伸びる月であるが、今年の勢いは今一歩である。
		スーパー（役 員）	単価の動き	・北海道の業況が悪化しているとの報道もあるが、当社では、客単価、来客数ともに前年を上回っており、順調な売上を維持し続けている。ただし、スーパーマーケットのような業態は、他店との競合の状況で数字が変化するので、必ずしも地域全体の景気を反映しているとは限らない。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・依然として、ホテルや大型商業施設の建築が目立っており、建築工事従事者の来店が多くみられる。すでに終了した物件もあるが、これから着工する物件もあり、好調を維持している流れとなっている。
		家電量販店（店 員）	来客数の動き	・来客数は前年とほとんど変わらない。招待会等のイベントを行うと、客が集まるという傾向も変わらない。
		家電量販店（地 区統括部長）	販売量の動き	・薄型テレビ、冷蔵庫、パソコンといった大物商品の販売量が、前年とほとんど変わらず、横ばいの状況にある。
		乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・今年に入って販売量の伸びない状況が続いている。
		その他専門店 〔医薬品〕（経 営者）	来客数の動き	・来客数はどん底まで減った感がある。顧客対策を講じていることで、客単価が上昇している分、来客数の減少を補っているが、傾向的には変わらない。今年は風邪などもはならず、業界としては大変な年である。
	高級レストラン （スタッフ）	単価の動き	・客単価は前年比94%と前月を更に下回った。単品メニューでの利用が多く、セットメニューの注文が少ないことに加えて、飲物の注文も少ない。	

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・例年、大型連休前の4月はディナーの売上が減少しており、年ごとに厳しさを増している。部門別売上では、昼が前年比80%、夜が前年比75%となっており、広告を出しているながら前年を下回った。特に、夜は料理よりもワインなど飲物の売上が減少していることから、大型連休前の節約とみられる。一方、個室の利用は好調で前年比140%となった。ここ数か月、企業による利用は活発であるが、個人による利用が低迷している状況が続いている。
	観光型ホテル (経営者)	販売量の動き	・道外客の入込は順調であることに加えて、地元客にも動きが出てきている。宿泊単価も、シーズンオフであるにもかかわらず高い水準にある。
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・前年と比べて、来客数にはほとんど変化がないことから、景況感としては変わらない。ただし、今年は統一地方選挙があり、選挙の年は客の動きが鈍いという傾向にあることから、選挙の影響を考慮すれば、やや上向きな傾向にあるのではないかという見方もできる。
	旅行代理店(従業員)	単価の動き	・夏場に向けての販売量も伸びておらず、期待できる要因も見当たらない。
	住宅販売会社 (経営者)	来客数の動き	・マイホームセンター、モデルハウス等の来場者が相変わらず少ないままである。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・戸建住宅の注文が低迷した状態が続いていることに加えて、一棟当たりの単価も低下している状況にある。
やや悪くなっている	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・4月の初めから非常に寒い日が続くという天候不順もあり、春物の動きが今一つである。下旬になって少しカジュアル関係の商品に動きが出始めている。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・4月の既存店の売上は前年比93.2%と、3月と比べて2.2%の減少となった。今年は暖冬であったが、春到来の遅れの影響を受けて、特に衣料品部門の売上が前年比89%と不振であった。その他の部門の売上も、住居用品が前年比88%、食品が前年比97%、専門店が前年比91%と前年を下回った。また、全国平均値との比較では、大型競合店の新規出店による競争激化の影響を受け、すべての部門が全国平均値を下回った。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・例年、4月は当店の誕生祭があり、年間を通して売上が大きく増加する月だが、今年は前年比89%と苦戦を強いられた。
	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・今年は統一地方選挙があったことに加えて、天候があまり良くなかったことから、展示会への人出が悪く、例年よりも売上が悪かった。
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・前年と比較して、販売量の減少幅が大きくなってきている。
	高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・月内に二度も選挙があったため、客足が途絶え、売上が低下した。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・4月の国内旅行は順調に推移したが、5月以降の先行受注が前年と比べてかなり悪い状況にある。海外旅行も下降線にあり、伸び悩んでいる。
	タクシー運転手	お客様の様子	・例年、4月は実車率が低下する月だが、今年は極端に実車率が落ち込んでいる。特にすすきのを中心とした繁華街で客足が遠のいている。
	悪くなっている	一般小売店[酒](経営者)	販売量の動き
スナック(経営者)		来客数の動き	・統一地方選挙があり、繁華街を歩く人の姿が少なかったこともあり、3~4月と過去3年間で最低の売上であった。
タクシー運転手		来客数の動き	・新年度の初めであるが、年々、新入社員歓迎会などの行事が減っており、タクシーの利用も減っている。
企業動向関連	良く なっている	-	-
	やや良く なっている	食料品製造業 (団体役員)	受注量や販売量の動き

	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注単価に今一つ強さがみられず苦慮しているが、受注の動きが少し活発になってきている。
	輸送業（支店長）	取引先の様子	・札幌駅前通における大型土木建築物等々の動きが具体的に増えてきたことに加えて、新千歳空港の国際線ターミナルビルの増床、苫小牧東部地域から千歳にまたがる自動車関連企業の進出等もあり、道内もやっとプラス面が多くなってきた。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、これまでと比べて、商材に多少動きが出てきていることがうかがえる。
変わらない	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙業、医薬飲料業、飼料肥料業、酪農業等の得意先に大きな変化はみられない。ただ、飼料製品は輸入原料の高騰が見込まれているため、農家の引取りが順調に推移している。
	金融業（企画担当）	それ以外	・中小企業向けの設備資金は乏しい。観光客の増加や道産品の人気により、菓子や水産加工品の食品メーカーは堅調であるが、公共投資の削減や民間工事の不振により建設関連業種は厳しい。従業員数を見ると、道内全体では製造業を中心に過剰感は薄れているが、建設業では人員削減志向が強くなっている。総じて景気は一進一退の状況にある。
	司法書士	取引先の様子	・土地取引、建物建築ともに低調である。個人住宅の建築も伸び悩みの状態で推移している。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-
雇用関連			
良くなっている			
やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣の需要は相変わらず底堅い。札幌に集中するコールセンターのオペレータのほかにも、求人誌には載らないような企業の中核をなす管理部門や営業部門の幹部などで、未経験若年者の中途採用ニーズが増えている。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・本州、特に名古屋周辺を含めた中部地域への派遣請負の求人数が増加しているものの、地元の求人数に伸びはみられない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・依然として、人材派遣業、病院・介護サービス、コールセンター等の求人が例外的に好調であり、その他の業種での伸びはみられない。ただし、スナックに関しては昨年に比べて15%程度求人数が増え、景気との関連性が気になるところである。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月の新規求人数は前年比で13.6%増加しており、月間有効求人倍率も前年を0.04ポイント上回る0.48倍となったが、一部の業種のみ増加によるものであり、全体としては変わらない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・6か月ぶりに新規求人数の前年比がマイナス傾向を脱したものの、数値は前年比マイナス2.3%にとどまっており、大きな変化はみられない。
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年比で約20%の減少となっており、減少傾向が続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・パート求人を含めて、新規求人数が減少傾向にある。
悪くなっている	-	-	-